



はじめて、ぴっぴだよりを書かせていただきます。一般社団法人森のようちえんぴっぴの監事の弓場法（ゆばあきら）です。監事の役割は、ぴっぴの業務が目的に沿って行われているか、お金の使われ方に問題がないかなどについて確認することです。日頃は、長野市内で公認会計士・税理士の仕事をしています。

東京新宿の生まれです。私がこどものころの新宿は、「三丁目の夕日」の世界です。家の前は原っぱで、6年生を頂点とする縦集団の仲間と穴を掘って陣地を作って泥団子を投げ合って戦ったり、女の子とお花や草を使っておまごをしたりしていました。原っぱで遊んだ時の、太陽の暖かさ、草や花の匂い、腕をなげる風の感触などは、今でもはっきりと覚えています。近所の駄菓子屋は、お菓子だけでなく、メンコやベーゴマなどの遊び道具を売っていて、こどものたまり場でした。お祭りで神輿を担いだり山車を引いたりしたのも楽しい思い出です。今では、都電は荒川線しか残っていませんが、当時の主な移動手段は、都電とトロリーバス（電気で動くバス）でした。新宿の西口には都民に上水を提供する淀橋浄水場があり、小学校の時に歩いて見学に行った記憶がありますが、今は高層ビル群に変わりました。

平成4年に、当時勤めていた東京の監査法人（会社の会計監査などを行うために公認会計士が集まって作る法人）が長野事務所を立ち上げることになり、希望して長野市に引っ越してきました。家内が上田市の出身で、盆や正月に家内の実家に遊びに来ており、長野での生活にあこがれていたからです。もちろん、自然の豊かさも理由のひとつです。当時、長男が2歳、二男が生まれて半年でしたが、子育ては自然豊かな環境でしたいとの思いがありました。しかし、もう一つの理由は、人のつながりの濃さです。家内の実家は農家ですが、毎晩近所の人が集まって、酒を酌み交わしていました。横で聞いていると、話題は国際情勢から芸術まで多岐にわたるのですが、結局最後は歌ったり踊ったりで、たぶん翌朝には何を話したか覚えていないのだろうと思います。ああ、こういう豊かな暮らしがあるのかとうらやましく思っていました。

今思えば、こどものころ、新宿で自然の中で遊んだ体験や、祭りの盛り上がるような人のつながりが濃い生活の記憶が、長野での生活を自分に選択させたのだと思います。

我が家のこどもたちは、いつづなにある幼稚園に通いました。山の中で泥だらけになって遊んでいましたので、季節の移り変わりを肌で感じる日々だったろうと思います。夏は飯綱山登山、野尻湖でカヌー、冬は戸隠でクロスカントリースキーやゲレンデのスキーなどのイベントもあり、そこでの体験は今もこどもの心に深く残っているようです。

さて、私とはといえば、監査法人の長野事務所にはごくわずかな期間しかおらず、独立して事務所を開きました。知り合いはゼロからのスタートでしたので、仕事がなくその面では苦労しました。逆に言うと、こどもたちと遊ぶ時間は、かなりとることができたと思います。

こどもの通っていた長野市内の安茂里小学校では、父親有志で7年1組というPTAの別動隊を立ち上げました。多くのPTAが現在でもそうであるように、こどもの通っていた小学校のPTAもいくつかの問題を抱えていました。学校の下請けのような仕事、PTA会費を集めるのでその分の行事を行わなければならないという義務感、そのため毎年繰返される同じような行事、その結果役員の引き受け手がなくくじ引きで決めることになるなどです。積極的な想いで活動にかかわる人たちが少なく、また、そういう想いを持った人たちがいても組織の中で大変なことはやりたくないという意見につぶされていきます。

7年1組の方針は明確です。学校の活動ですから、こどもたちに関連するものである必要はありますが、「大人がまず自分たちで楽しめることをやろう。」ということにしました。

活動の企画は、この指とまれ方式です。誰かがやりたいことができると、SNSで仲間を募ります。その企画が面白いと思えば、自分もその企画運営に参加する訳です。初めに言い出した人が責任者となって集まった仲間と企画をまとめ、学校側との施設利用の交渉や、7年1組学級通信を印刷して各家庭に配付をして参加者を募りました。

この結果、既存のPTA活動では出てこないような多様な企画を実施することができました。段ボールでお泊り（家電量販店などから大量の段ボールをもらってきて、こどもたちが好きな設計で段ボールの家を作って体育館でお泊りする企画）、安茂里小祭り（体育館内だけで通用するアモという通貨を使って、こどもたちが飲食店や雑貨店を出店し商売する。）、風船でジャンプ（ヘリウムの風船で体を軽くしてジャンプしてみる）、いかだづくり（プールでいかだを作って乗ってみる…崩壊しましたが。）、化石採集（信州新町化石博物館の学芸員に指導を頼みました。）、学有林で遊ぼう（父親たちが県の林務部主催の研修に参加してチェーンソーや鉈などの使い方を学び、学有林を整備して森の中で遊ぶ環境を整えました。みな、マイ・チェーンソーを持っているのが自慢でした。）などなど、毎月いくつもの企画が実施されました。しかも、企画ごとに本当に必要なお金だけを集めるので、保護者の負担はわずかで、多くの企画を実施することができました。

企画のいくつかはその後も引きつがれ、それらの活動が評価されて、小学校は優良PTA文部科学大臣表彰を受賞しました。そのように周りに評価されることはうれしいことですが、大切なのは、主体性をもって活動に取り組むというスタンスです。そこを外すと、いつの間にか義務感になり、楽しくなくなります。そんなことを、7年1組の活動を通じて学び、大人の側も成長したと思います。

